

# いもう 葦毛通信



センニンソウ

2024年9月12日  
豊橋市文化財センター  
豊橋市松葉町三丁目1  
TEL: 0532-56-6060

No. 160

## 1、第8回葦毛湿原再生フォーラム

### 「絶滅危惧種の保全と生物多様性」

とき：10月19日(土)開会13時55分～16時40分(開場13時30分)

ところ：豊橋市民センター カリオンビル6階多目的ホール(松葉町2丁目63)

講師：増田理子(名古屋工業大学教授)・贅元洋(豊橋市文化財センター)

演題：「絶滅危惧種の保全と生物多様性」・「葦毛湿原の絶滅危惧種」

定員：99名 当日先着順 参加料：無料

問合せ：豊橋市文化財センター(☎0532・56・6060)

葦毛湿原には湿生植物を中心とした植物、昆虫、魚類等の数多くの絶滅危惧種の生物がいます。また、絶滅危惧種に指定されてなくても、葦毛湿原では絶滅しそうになっている植物もあります。これらの絶滅危惧種を保全することは、生物多様性を維持していく上で明確な指標になります。

この絶滅危惧種の保全と生物多様性との関係について、葦毛湿原の現状を説明し、生態学的な視点から多様な生物が共存している構造と人間との関係を解説します。

#### 1) レッドリスト・レッドデータブック(絶滅のおそれのある種)

レッドリストとは、野生生物を絶滅の恐れのある程度でランク分けをしてリストで、レッドデータブックとは、リストにある生物種の生息状況を解説した資料集です。1966年に国際自然保護連合(IUCN)から発行され、日本でも環境省が発行したリスト(国リスト)と都道府県が発行したリストがあります。愛知県からは「レッドリストあいち2020」『レッドデータブックあいち2020』が発行されています。

#### 絶滅のおそれのある種の 카테고리(環境省)

	カテゴリー	判断基準
1	絶滅(EX)	我が国ですでに絶滅したと考えられる種
2	野生絶滅(EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
3	絶滅危惧I類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
	・絶滅危惧IA類(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	・絶滅危惧IB類(EN)	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
4	絶滅危惧II類(VU)	絶滅の危機が増大している種
5	準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

6	情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
7	絶滅の恐れのある地域個体群(LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅の恐れが高いもの

\* 3・4 (黄色の部分) : 絶滅のおそれのある種 (絶滅危惧種)

## 2) 葦毛湿原の絶滅危惧種

葦毛湿原やその背後の山にはすでに絶滅してしまった種もありますが、数多くの絶滅危惧種が存在します。愛知県のレッドリストでは絶滅が1種、絶滅危惧が48種、その他が24種の、合計73種になります。フォーラムでは、その実態について説明します。

### 葦毛湿原及びその周辺の絶滅のおそれのある種

	カテゴリー	維管束植物	コケ類	昆虫類	クモ類	両生類	哺乳類	鳥類	淡水魚	小計
1	絶滅(EX)	1								1
2	野生絶滅(EW)									0
3	絶滅危惧ⅠA類(CR)	7				1		1		9
	絶滅危惧ⅠB類(EN)	9		3				4	1	17
4	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	15		4		1	1	1		22
5	準絶滅危惧(NT)	6	1	10	1	1	3			22
6	情報不足(DD)						1			1
7	絶滅の恐れのある地域個体群(LP)						1			1
		38	1	17	1	3	6	6	1	73



葦毛湿原では地上絶滅した種 (左: ミカワシオガマ、右: サワラン、撮影: 星野清治)

### 3) 絶滅危惧種以外の絶滅が心配される種

葦毛湿原では、ウメバチソウやホソバリンドウ等の絶滅危惧種に指定されていなくても絶滅しそうになっている種があります。フォーラムでは、このような種の現状の説明と、種ごとに行っている保全作業について説明します。

### 4) 絶滅のおそれのある種の保全

葦毛湿原では湿原全体を対象にした大規模植生回復作業と、絶滅しそうになっている種ごとに行う種別作業があります。種別作業には対象種の近くにある植物を部分的に除去する方法や種子の結実を進めるための人工授粉等があり、これらの作業について説明します。

### 5) ポリネーターの保全

葦毛湿原では花粉を運ぶポリネーターの保全を目的に、多様な環境の保全を行うための作業、ポリネーターを増やすニホンミツバチの巣箱の設置等の作業を行っています。

## 2. 三太郎池湿地観察会

豊橋市指定天然記念物「三太郎池湿地」の見学会を以下の予定で開催します。三太郎池湿地は、保護のため常時公開はしていません。愛知県絶滅危惧 I A 類のミコシギクは自生地点近くまで行ける観察路を整備します。この機会にぜひご覧ください。

- 1 開催日時 10月26日(土) 9:30~12:00
- 2 集合場所 岩崎広場(岩崎町字長尾ほか)
- 3 参加申込 現地受付(事前申し込み不要、少雨決行)
- 4 駐車場 高山広場内駐車場(飯村町字高山11-19)  
会場まで徒歩約10分
- 5 交通機関 豊鉄バス飯村岩崎線(豊橋駅前発赤岩口ゆき、赤岩口発豊橋駅行き)「影岩」停留所下車、南へ徒歩約7分
- 6 問い合わせ 豊橋市文化財センター(☎0532-56-6060)



ミコシギク



ミコシギク開花状況(2023年11月8日)

### 3、疑惑のサギソウ

葦毛湿原では、今年サギソウの花が多く咲きました。しかし、その咲き方はかなり特異なものでした。湿原内の数か所で、木道沿いの狭い範囲に集中して咲き、草丈も高く大型の個体で多くの花を咲かせていました。下写真は湿原中央部M地点の木道脇ですが、直径1 m程度の範囲に41花が咲きました。イヌノハナヒゲ群落の中から突然現れたように感じられました。これまで、葦毛湿原ではこのように集中して咲くことはありませんでした。

2020年4月2日には、サギソウの球根が大量に投げ入れられ、ボランティアの方たちと除去作業を行いました（葦毛通信 No. 97 参照）。それ以来、球根の投げ入れは確認されていませんでしたが、今回はサギソウの球根が投げ入れられた可能性が高いと判断しています。現地には、投げ入れ禁止看板を設置してあるので、分かった上で行っていると思われる。このような行為は、葦毛湿原だけではなく、全国の湿地で行われていると考えられます。これからどのように対処するのか専門家の意見を聞いた上で対応したいと考えていますが、他の地域でも十分に注意する必要があります。



湿原中央部M地点のサギソウ（2024年8月15日）



サギソウ開花範囲

サギソウ拡大